

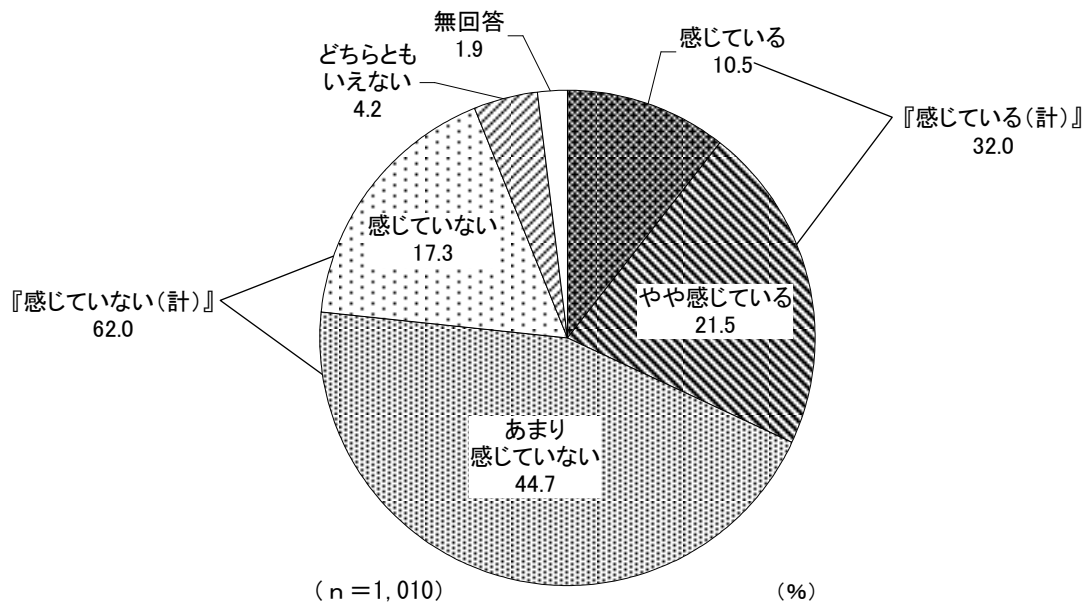
## 5. スポーツを通じて健康で豊かに暮らせるまち

(1) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が身近になってきたと感じているか

◇ 「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は3割を超える

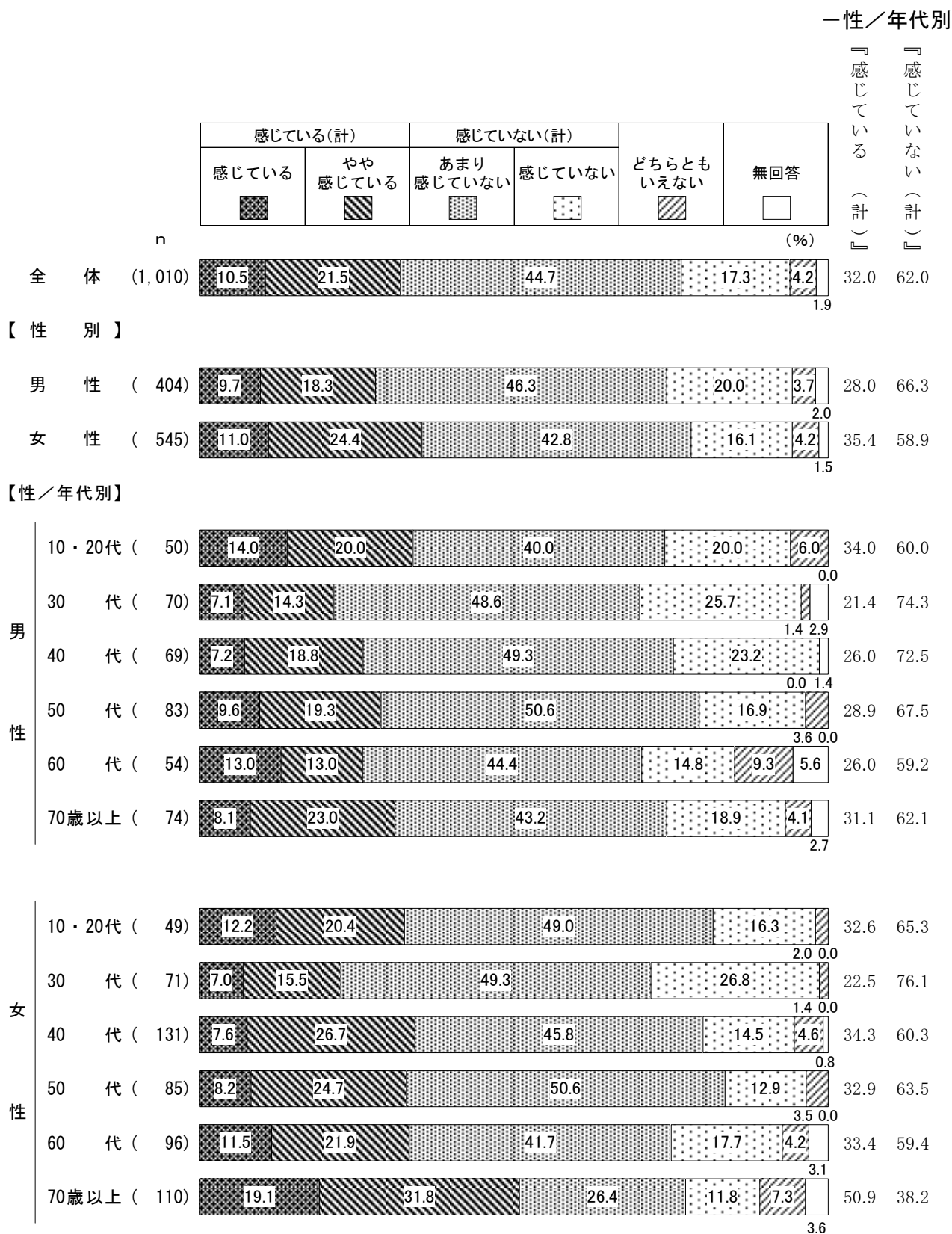
問9 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会まであと約3年となり、準備が進んでいます。東京2020大会が身近になってきたと感じていますか。(○は1つだけ)

図5-1-1



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が身近になってきたと感じているか聞いたところ、「感じている」(10.5%)と「やや感じている」(21.5%)を合わせた『感じている(計)』(32.0%)は3割を超えている。一方、「あまり感じている」(44.7%)と「感じている」(17.3%)を合わせた『感じている(計)』(62.0%)は6割を超えている。(図5-1-1)

図5-1-2 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が身近になってきたと感じているか



性別でみると、『感じている(計)』は女性(35.4%)が男性(28.0%)より7.4ポイント高くなっている。

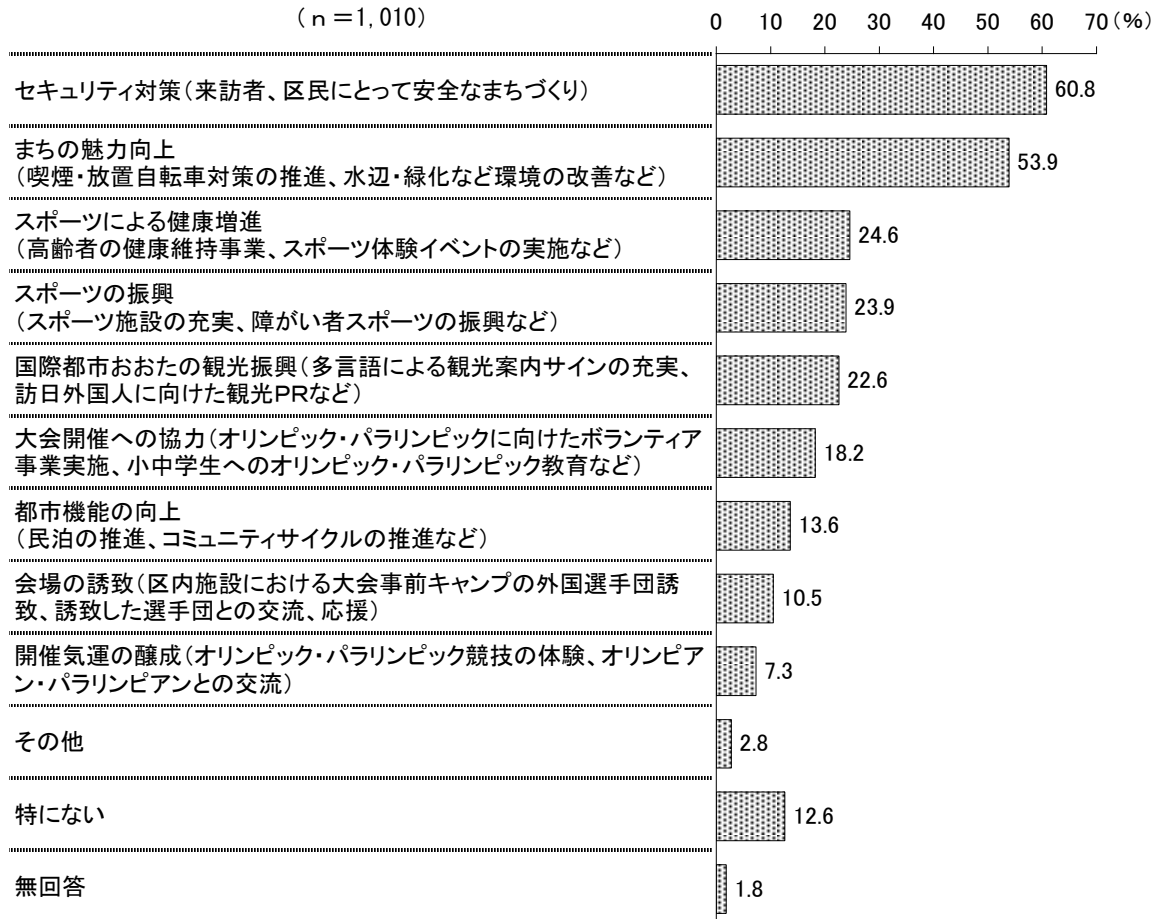
性／年代別でみると、『感じている(計)』は女性70歳以上(50.9%)で約5割と高くなっている。一方、『感じていない(計)』は女性30代(76.1%)と男性30代(74.3%)、男性40代(72.5%)で7割台と高くなっている。(図5-1-2)

(2) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて区に期待する取組

◇「セキュリティ対策（来訪者、区民にとって安全なまちづくり）」が約6割

問10 大田区が取り組む東京オリンピック・パラリンピック推進事業の中で、期待する取組は何ですか。（〇はいくつでも）

図5-2-1

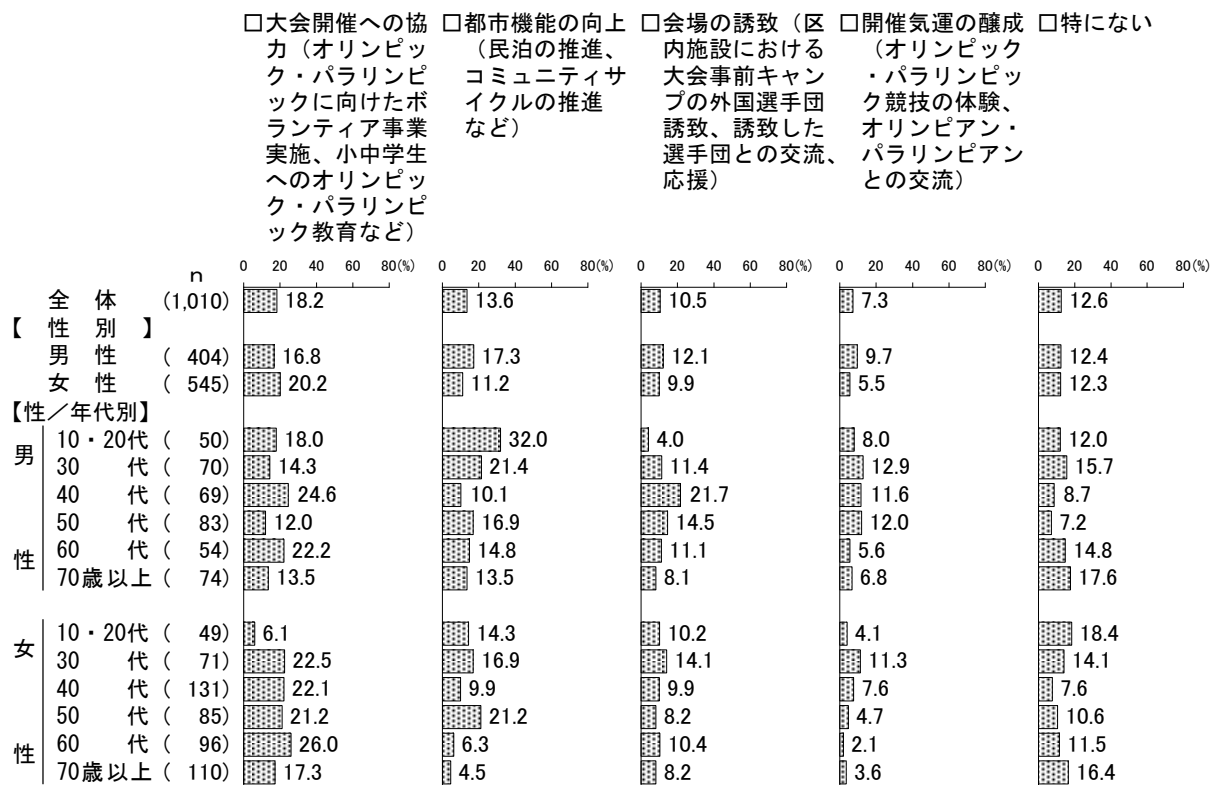
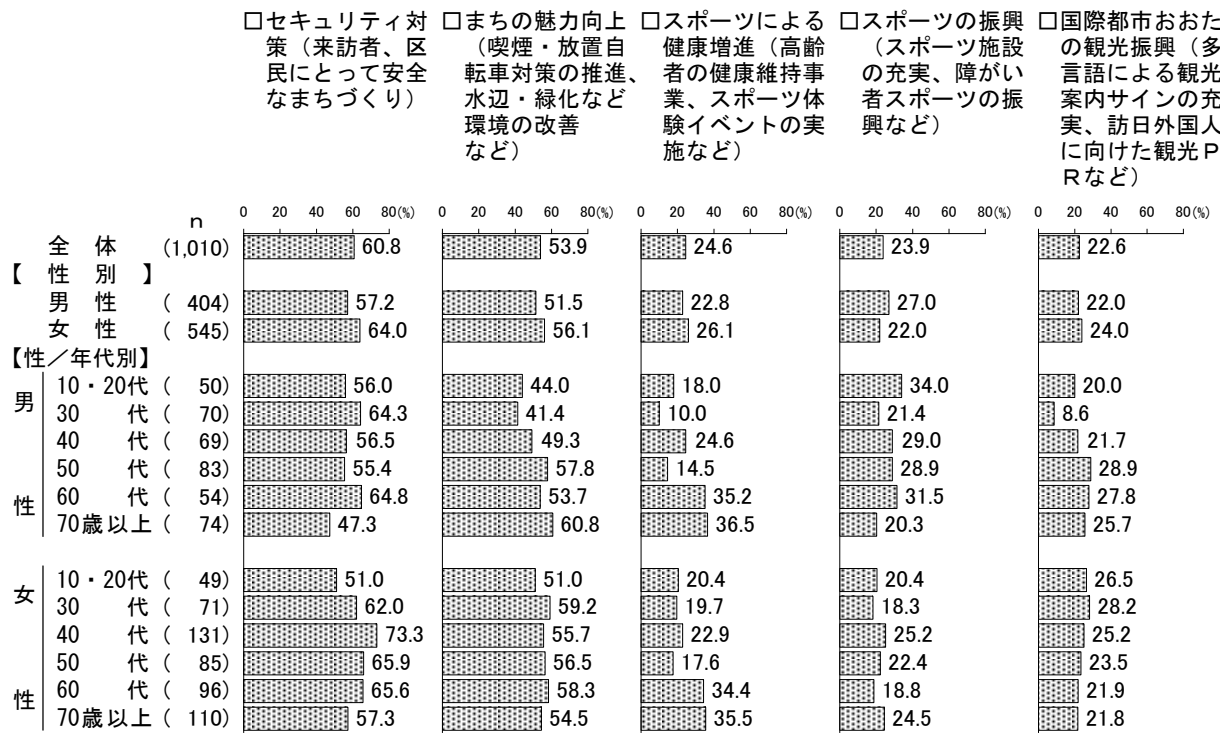


東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、大田区に期待する取組を聞いたところ、「セキュリティ対策（来訪者、区民にとって安全なまちづくり）」(60.8%)が約6割で最も高く、次いで「まちの魅力向上（喫煙・放置自転車対策の推進、水辺・緑化など環境の改善など）」(53.9%)、「スポーツによる健康増進（高齢者の健康維持事業、スポーツ体験イベントの実施など）」(24.6%)、「スポーツの振興（スポーツ施設の充実、障がい者スポーツの振興など）」(23.9%)、「国際都市おおたの観光振興（多言語による観光案内サインの充実、訪日外国人に向けた観光PRなど）」(22.6%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「ポイ捨てなどごみ問題への対策」、「オリンピック後の施設活用」、「経済効果」などがあげられている。(図5-2-1)

図5-2-2 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて区に期待する取組

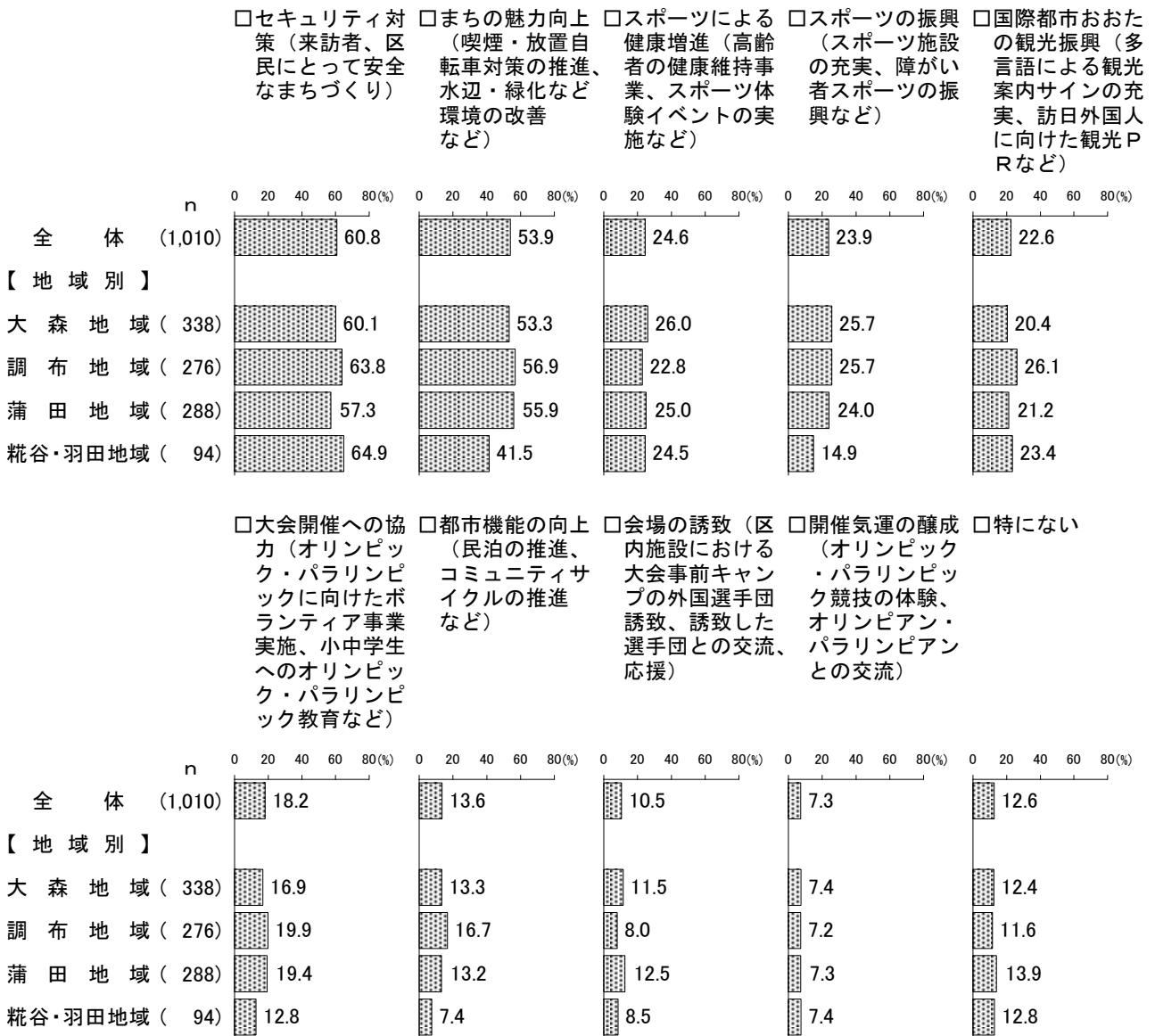
—性／年代別



性別で見ると、「セキュリティ対策」は女性(64.0%)が男性(57.2%)より6.8ポイント高くなっている。一方、「都市機能の向上」は男性(17.3%)が女性(11.2%)より6.1ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「セキュリティ対策」は女性40代(73.3%)で7割を超えて高くなっている。「まちの魅力向上」は男性70歳以上(60.8%)と女性30代(59.2%)で約6割と高くなっている。(図5-2-2)

図5-2-3 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて区に期待する取組—地域別



地域別でみると、「セキュリティ対策」は糀谷・羽田地域（64.9%）で6割半ばと高くなっている。「まちの魅力向上」は糀谷・羽田地域（41.5%）を除く全ての地域で5割台と高くなっている。

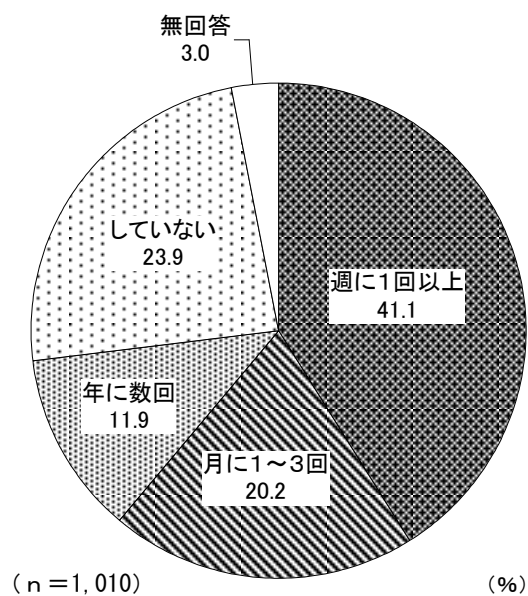
(図5-2-3)

### (3) この1年間の運動・スポーツ活動の頻度

◇「週に1回以上」が4割を超える

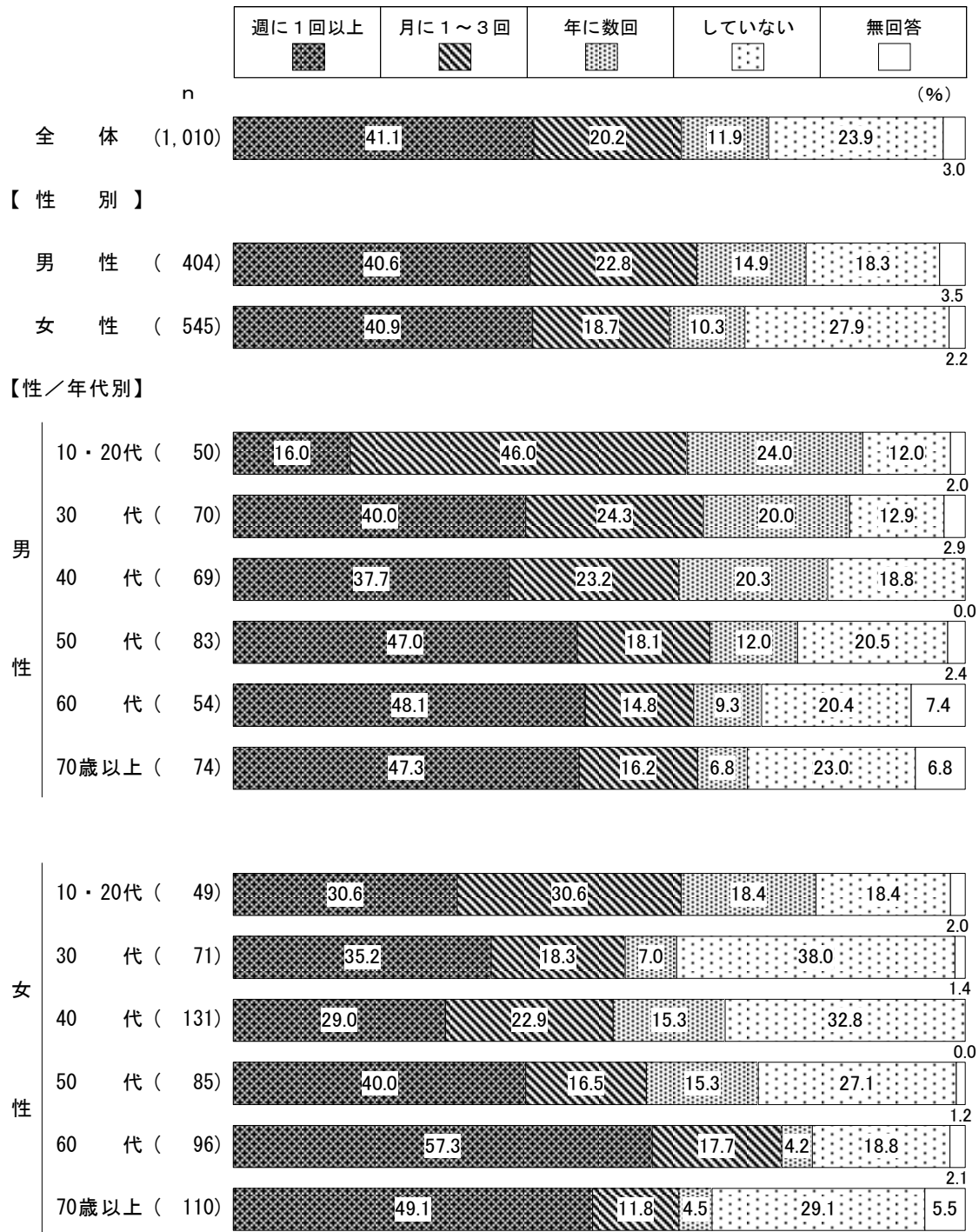
問11 この1年間に、どれくらいの頻度で運動・スポーツ活動をしましたか。  
なお、運動には30分程度の散歩なども含みます。(○は1つだけ)

図5-3-1



この1年間の運動・スポーツ活動の頻度を聞いたところ、「週に1回以上」(41.1%)が4割を超えて最も高く、「月に1~3回」(20.2%)は2割、「年に数回」(11.9%)は1割を超えている。一方、「していない」(23.9%)は2割を超えている。(図5-3-1)

図5-3-2 この1年間の運動・スポーツ活動の頻度－性／年代別

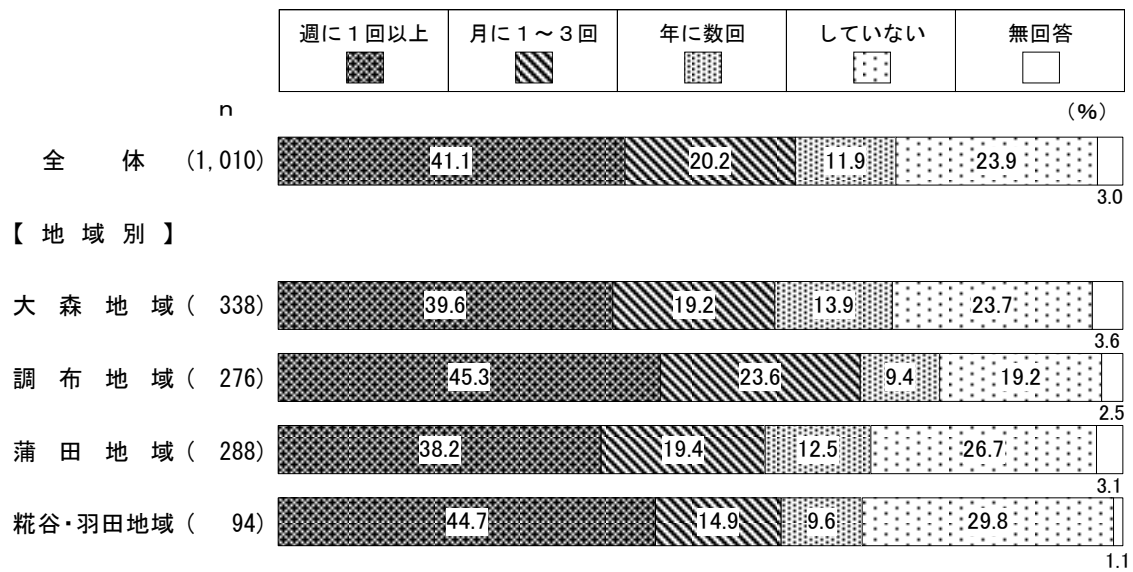


性別で見ると、「していない」は女性（27.9%）が男性（18.3%）より9.6ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「週に1回以上」は女性60代（57.3%）で6割近くと高くなっている。一方、「していない」は女性30代（38.0%）と女性40代（32.8%）で3割台と高くなっている。

(図5-3-2)

図5-3-3 この1年間の運動・スポーツ活動の頻度—地域別



地域別でみると、「週に1回以上」は調布地域（45.3%）と糀谷・羽田地域（44.7%）で4割半ばと高くなっている。一方、「していない」は糀谷・羽田地域（29.8%）で3割と高くなっている。

（図5-3-3）